

【樹木の部屋】

エゴノキ (エゴノキ科エゴノキ属 *Styrax japonicus*)

和名: エゴノキ(野茉莉)

別名: チシャノキ(萵苣木)、ロクロギ(轆轤木)、チサノキ 英名: Japanese snowbell

ツツジ目 落葉広葉樹 原産地: 日本

花言葉: 壮大、清楚 花色: 白、桃



← 写真-1 エゴノキ
(ピンクチャイム・園芸種)
撮影日: 2023年5月31日
撮影場所: 米原市郊外にて
撮影者: M さん



→ 写真-2 エゴノキの花後
撮影日: 2023年5月31日
撮影場所: 米原市郊外にて
撮影者: M さん

古くから親しまれてきた万葉植物の一つで、日本全土に分布しています。「エゴノキ」の名前は、果実を口に入れると喉や舌を刺激して「えぐい(えごい)」味がすることから「エゴノキ」と呼ばれるようになったそうです。樹形は野趣に富むことから、雑木の庭の植栽材料としてよく利用されているそうです。

葉は互生し、両端の尖った長楕円形で、葉の縁はほぼ全縁もしくは低い鋸歯があります。樹皮は暗紫褐色から暗灰褐色で、ほぼ滑らかできめが細かく、枝はジグザグ状に伸びます。一年枝は細く無毛または星状毛が残り、老木は樹皮に浅い裂け目が入ります。

花期は春で、短い側枝の先端に総状花序を出し、芳香があります。花冠は深く5裂し、基部に10本の雄蕊がつきます。大きくは開かずややつぼみ加減で咲き、雄蕊は10本で、淡紅色の花をつける品種もあります。花が散るときは、この花冠がすっぽり抜けるように落ちます。

果期は10月。果実は卵球形で灰白色。大きい種子を1個含みます。熟すと果皮は不規則に破れて種子が露出します。種子や果皮に、胃や喉の粘膜に炎症を起こし、溶血作用もある有毒なエゴサポニンを多く含みます。ピーク時には果実にも同量のサポニンを蓄えますが、11月を過ぎると急激に減少するそうです。

エゴノキは、枝が横に広がるように伸びた自然樹形が美しい樹木です。剪定適期は落葉期で、剪定をする際は、枝先を切るのではなく、枝分かれしている根本から切る透かし剪定で、風通しが良く、樹形も綺麗にまとまりやすくなります。

<ちょっと一言>

- *花や葉に変異のあるものが見られ、ホソバエゴノキ、テリハエゴノキなどの変種があるほか、萼がピンク色のベニガクエゴノキや小花のヒメエゴノキなどは品種として扱われているそうです。
- *園芸種としては桃色花の品種「ピンクチャイム」や枝がしなる「シダレエゴノキ」などの改良種もあり、また盆栽としても楽しまれており中には手のひらサイズのミニ盆栽もあるそうです。